

# マインドマップと整読用フォーマットの効用

## ～専門学校での活用実践を中心として～

高 倉 良 一

- I. はじめに
- II. 整読用フォーマットの紹介
- III. マインドマップの紹介
- IV. 実践の概要
- V. 分析の方法と手順
- VI. 結果と考察
- VII. 終わりに

### I. はじめに

筆者は、香川県歯科医療専門学校で担当している社会学の授業で、授業が終了してから数日後に、授業に関する感想や意見をレポート用紙1枚にまとめて提出してもらっている。そして、提出されたレポートすべてを印刷し、次回の授業の際に受講生全員に配布している<sup>(1)</sup>。

このような実践をしている理由は3つある。1つは、教室を学生と教員がともに学び合うことができる場にしたいからである。1つは、ある程度の時間を置いた後に授業中に考えたことをまとめてもらうことが、受講生の思索を深める上で効果的ではないかと考えるからである。1つは、学生が他の学生のレポートを読むことによって、自らの文章表現能力を向上させたいという意欲が生じるのではないかと考えるからである。

このような実践をするために、最初の授業の際に、筆者は、これまでレポート作成の技法としてデッサンメモ<sup>(2)</sup>とマインドマップを教授してきた。この2つの技法を習得するならば、学生は、レポートを作成することについての抵抗が少なくなるのではないかと考えたからである。特に、マインドマップの作成法をマスターすれば、歯科衛生士の国家試験の勉強をする際にも役立つのではないかと考えたからである。

2011年7月に、筆者は、経営コンサルタントの高橋政史氏（以下、高橋氏と記述する）が主催されたセミナー「1枚シンプル思考法」に参加し<sup>(3)</sup>、高橋氏の考案された16分割メモ<sup>(4)</sup>をベースとした整読用フォーマットの作成法を学んだ。

その結果、筆者は、この技法の方が短時間で簡単なレポートを作成する方法としては優れているのではないかと考えるようになった。

そこで、2011年10月7日に行った香川県歯科医療専門学校の授業で、マインドマップと整読用フォーマットの作成法の2つを教授することにした。

本稿では、この授業を受けた学生の感想を分析し、マインドマップと整読用フォーマットの効用を検討することにした。

## II. 整読用フォーマットの紹介

整読とは、高橋氏が提唱されている読書法で、「本を1冊15分で読む。本から得た情報を紙1枚にまとめる。その内容を自分の言葉で、人に的確に伝える。あるいは、実際のアクションに落とし込む。」という読書法である<sup>(5)</sup>。

高橋氏は、この読書法を行うために、図1のフォーマットを考案された。そして、このフォーマットをベースとして、さらに、7つの整読フォーマットを作成されている<sup>(6)</sup>。

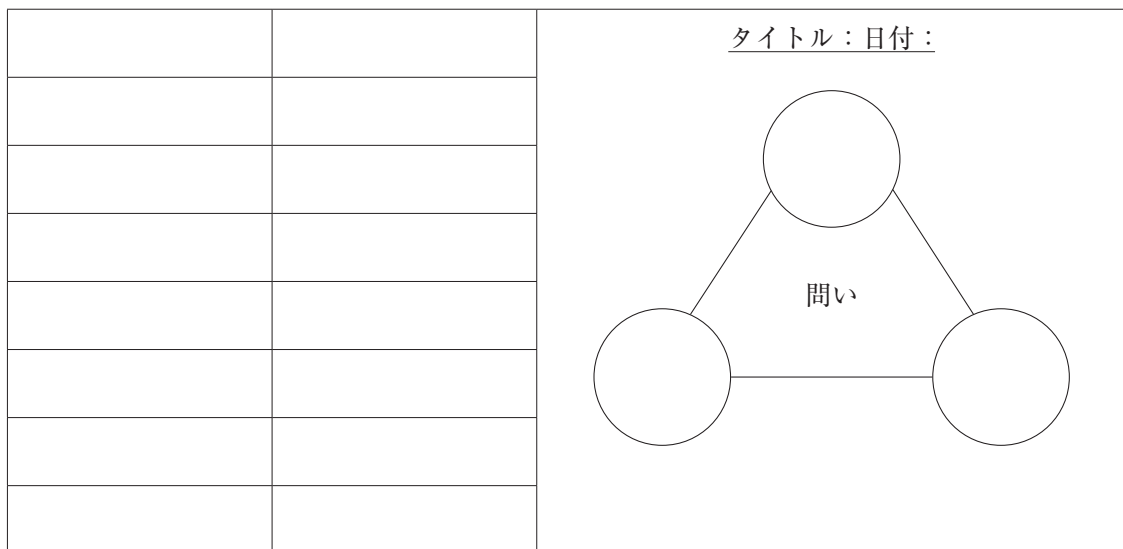


図1 整読用フォーマット

前述のように、筆者は、用紙1枚のレポートを作成するための技法として、学生に整読用フォーマットを教授しようと考えた。このフォーマットを活用すれば、マインドマップを作成するよりも短時間で授業の感想などをまとめることができるのではないかと考えたからである。

整読用フォーマットの作成は、まず、フォーマットの問いの部分にテーマを記入する。それから、左側の16のマスの中に、このテーマに関連するキーワードを一つずつ書き込む。その上で、これらのキーワードの中から3つを選び、右側の丸の中に一つずつ記入する。そして、これらの3つのキーワードを1つの文章にまとめるのである。

この文章は、設定したテーマについての結論となる。また、抽出された3つのキーワードは、その結論を導き出す論拠となるのである。

筆者は、このフォーマットはレポートを作成する際のメモとなり、この図を参照することにより、短時間で論理的なレポートを作成できるのではないかと考えたのである。

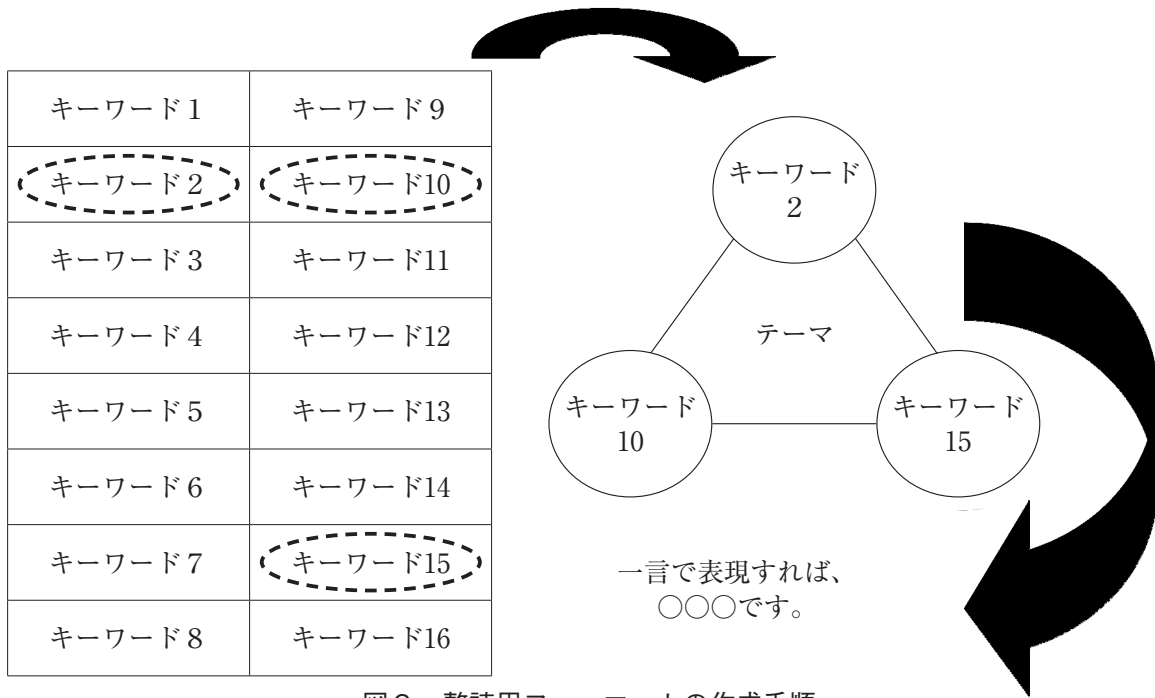


図2 整読用フォーマットの作成手順

### Ⅲ. マインドマップの紹介

マインドマップは、1970年代初頭に、イギリス人のトニー・ブザン氏によって生み出された技法である。トニー・ブザン氏は、「頭の中のいろいろな場所で次々とアイデアが浮かぶ様子をそのまま描写したノートが『マインドマップ』」であると述べている<sup>(7)</sup>。

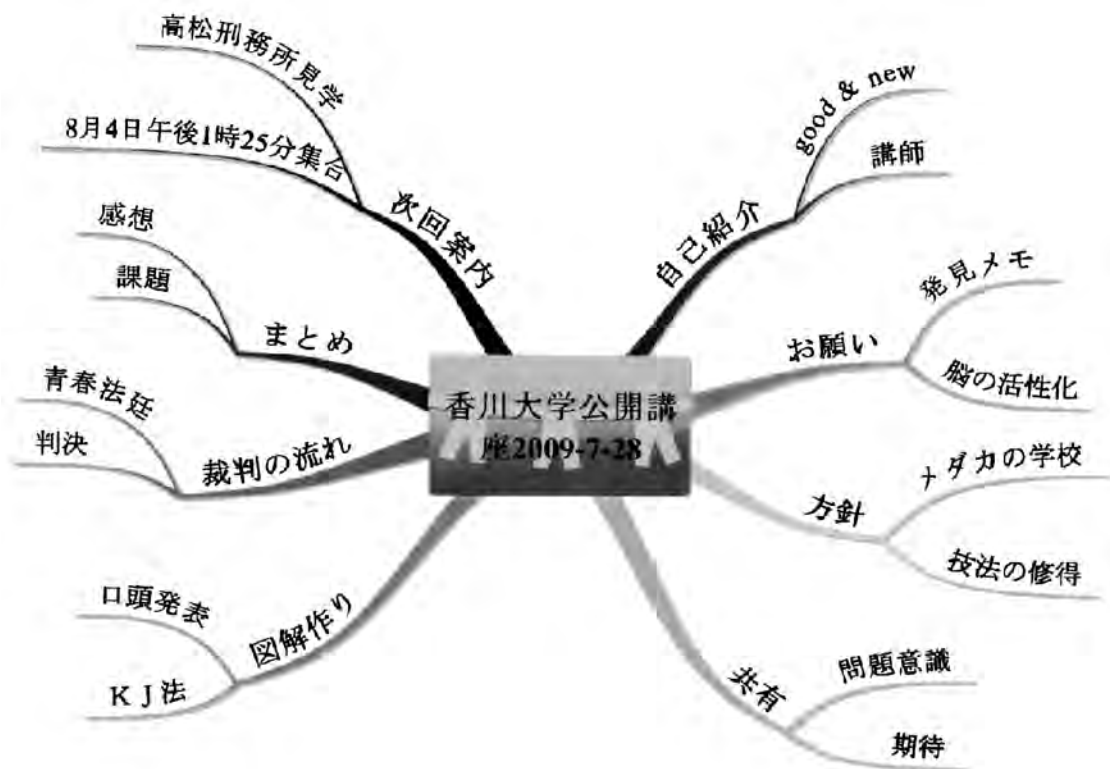


図3 筆者が作成したマインドマップ

マインドマップの作成法は、図3に示すように、まず、紙の中心に、テーマをイメージしたセントラル・イメージと呼ぶイラストを記入する。つぎに、このセントラル・イメージから、メイン・ブランチと呼ぶ太い曲線を放射状に記入する。その上で、このメイン・ブランチの上に、本の見出しに相当するキーワードやイメージを書き込む。これらのキーワードやイメージは、BOI (Basic ordering Idea) と名付けられている。それから、メイン・ブランチから、さらにサブ・ブランチと呼ぶ細めの曲線を描く。このサブ・ブランチの上に、BOIから連想した言葉やイメージを書き込むのである。

マインドマップは、その作成に際して、多くのカラーペンを活用する。セントラル・イメージは、少なくとも5、6色を用いて作成する。また、各メイン・ブランチは、それぞれ異なる色とされる。このメイン・ブランチから出されたサブ・ブランチは、そのメイン・ブランチと同一の色とされている。

トニー・プザン氏は、このようにカラフルな色を使うことによって、脳への刺激が高まり発想が豊かになると述べている。

#### IV. 実践の概要

2011年10月7日に、香川県歯科医療専門学校 of 学生38名を対象とした社会学の最初の授業で、筆者は、学生に、まず自己紹介という形式で整読用フォーマットとマインドマップの作成を体験してもらうことにした。それから、この2つの図解作成法は、レポートを作成する際の下書きのような役割を果たすという説明を行うことにした。以下、その実践の概要を紹介する。

まず、授業を開始する前に、受講生に対して自己紹介をするための図解を作成した上で授業に臨むようにとの課題を出しておいた。

つぎに、授業では、数人ずつのグループを作ってもらい、各自が作成した図解を示しながら、1人2分間以内で自己紹介をしてもらった。

それから、高橋氏が考案された整読用フォーマットの作成方法を説明した。

具体的には、まず、整読用フォーマットのテーマの部分に、「私が自己紹介で伝えたいことは」という文を記入し、左側のマスに、紹介したい事柄をキーワードで記入してもらった。それから、16のキーワードの中から3つを選び、それぞれ丸枠の中に1つずつ記入した後に、これらのキーワードをまとめたキャッチフレーズを文章化してもらった。

以上の作業を約10分間で行ってもらい、最初に自己紹介をしたメンバーとは異なるグループを作り、各人2分間以内で自己紹介をしてもらった。

その後、マインドマップの作成法を教授し、20分間で自己紹介のためのマインドマップを作成してもらった。予定では、マインドマップも10分間で作成してもらうつもりだった。しかし、その時間内では作成することができなかつたので時間を延長したのである。

この作業終了後、さらに異なるメンバーを相手にして、各人2分間以内で自己紹介を行ってもらった。

それから、この2つの図解作成法を、レポートを作成する際の下書きメモとして活用するための方法を教授した。その上で、今回の授業に関する感想や意見をB5のレポート用紙1枚にまとめて、翌週の月曜日に提出するようにとの課題を出したのである。

## V. 分析の方法と手順

受講した学生38名全員がレポートを提出した。そこで、記述式データを分析する上で定評のあるKJ法<sup>(8)</sup>を用いて、レポートに書かれた内容を分析した。

具体的には、まず、各レポートの中から自己紹介の方法に関する記述をピックアップし、その内容を要約したKJラベルを作成した。

すると、KJラベルの枚数が145枚となったので、これらのラベルを、KJ法の多段ピックアップ法によって38枚に絞った。そして、これらのラベルを元ラベルとしてKJ法図解を作成した。

それから、このKJ法図解を基調としながら、図4の論述型図解を作成した<sup>(9)</sup>。

## VI. 結果と考察

図4の論述型図解に即しながら、学生の感想の分析結果を紹介することにしたい。

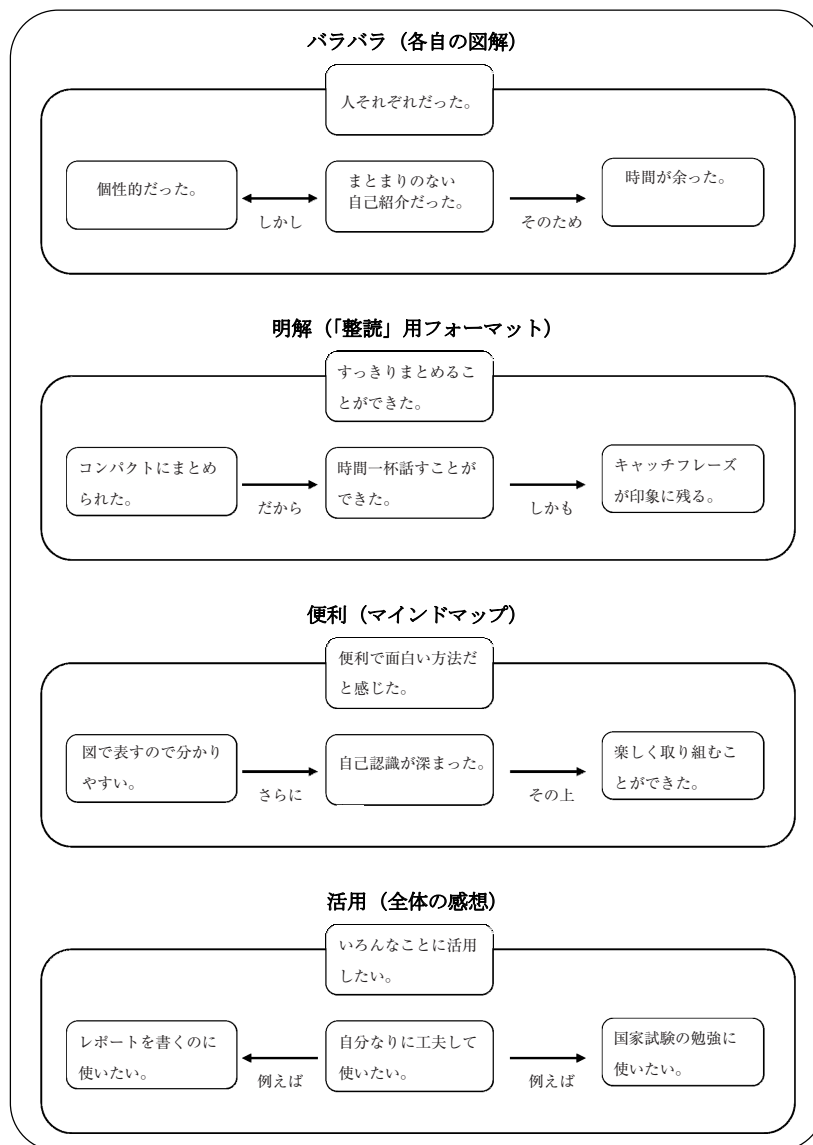


図4 学生の感想を分析した論述型図解

授業を行う前に課題として作成した自己紹介の図解は、個性的ではあるものの、まとまりのないものが多く、グループ内で発表する際には時間が余ってしまったとの感想が多かった。

つぎに、整読用フォーマットを活用した自己紹介については、内容をすっきりとまとめることができたので時間一杯話すことができ、キャッチフレーズを述べるので、自己紹介の内容が印象に残ったとの感想が多く記載されていた。

マインドマップの自己紹介に関しては、ほとんどの学生が図解を作成するのが楽しく、自分が考えている事柄を分かりやすくまとめることができるので、とても役に立つ方法だと述べていた。

全体的な感想としては、国家試験の勉強のためにマインドマップを活用したいと述べた者が多かった。しかし、マインドマップの作成には時間がかかるので、レポートの作成には短時間でまとめることができる整読用フォーマットを活用したいと述べる者がいた。さらに、マインドマップと整読用フォーマットを組み合わせ、自分なりに工夫をしてレポート作成をしたいと述べる者もいた。

以上の結果から、マインドマップと整読用フォーマットを教授したことにより、以下の2つのことが予想されるのではないと思われる。

1つは、学生がマインドマップを活用する可能性が高いということである。マインドマップについては、楽しく取り組むことができるという点と国家試験の勉強に活用できるという点で、圧倒的に高い評価を受けたからである。

1つは、整読用フォーマットを、学生がレポートを作成する方法として活用することが予測される。整読用フォーマットについては、短時間で思考を整理できる方法として有効であるとの評価をした学生が多かったからである。

## VII. 終わりに

マインドマップについては、学校教育の現場では数多く活用されている<sup>(10)</sup>。ところが、整読用フォーマットについては、考案されてから日も浅く、学校教育の現場での活用例は極めて少ないようである。

しかしながら、高橋氏が整読用フォーマットの活用を提唱されている著作は、2011年度から2012年度にかけて、ビジネス部門の書籍ではベストセラーになっている。

今回の授業実践の結果から、マインドマップとともに整読用フォーマットも活用したいとの感想を持った学生が多く見られた。また、これら2つの方法を自分なりに組み合わせて活用したいと述べる学生もいた。

整読用フォーマットの作成法に、マインドマップを作成する上で感じるすることができる楽しさを付加する工夫ができれば、学校教育の現場でも普及していくのではないだろうか。

## 注

(1) 勤務校である香川大学では、筆者が単独で担当しているすべての授業で、授業が終了してから数日後に、授業に関する感想や意見をA4のレポート用紙1枚にまとめて提出してもらっている。そして、これらのレポートすべてを印刷し学生に配布している。その実践については、高倉良一「講演『よりよい授業に向けて』－授業評価の高かった教官に聞く－『主題科目 現代社会の諸相』『平成14年度 香川FD研修会報告書』(香川大学、2003年)12頁以下参照。

(2) デッサンメモとは、筆者が、KJ法や精神分析の自由連想法を手がかりとして考案した「発想したり、思索したりする力を増進するための技法であり、しかも、考えついた事柄を文章化するための技法」(高倉良一「デッサンメモで自己表現」高村忠

成編『仏法と健康・豊かさを考える』（1995年、第三文明社）150頁）である。

- (3) 筆者は、16分割メモを考案された高橋氏が主宰された様々な研修会に参加してきた。これらの研修会の内容はいずれも充実したものであり、習得した技法を教育実践や論文執筆で活用してきた。筆者が参加した研修会は、以下のようなものである。

2008年12月 プロフェッショナル思考・ロジカルシンキング講座  
2009年5月 プロフェッショナル思考・ソリューションボックス強化講座  
2010年12月 マインドマップ・アドバイザー講座  
2011年7月 1枚シンプル思考法「1枚簡潔！物語プレゼンテーション」講座  
2011年7月 1枚シンプル思考法「整読」講座  
2011年7月 1枚シンプル思考法「紙1枚で企画創造する技術」講座  
2011年10月 「1枚シンプル思考法」マスター養成講座  
2012年12月 1 DAY スペシャル講座「THE SHIFT」

- (4) 16分割メモとは、高橋氏が考案されたメモで、メモ帳の「機動性」と、ポストイットの「ブロック単位のメモ」と、ノートの「一覧性」と「作業性」の各機能を備えたメモである。

筆者は、20数年間、5インチ×3インチのカードをメモとして用いてきた。しかし、「1枚シンプル思考法」マスター養成講座の研修を終えた翌日から、このカードと決別し16分割メモを活用することにした。以来、現在に至るまで、筆者は、2つの16分割メモ形式のメモ帳を使用している。1つは、大学や専門学校での教育や研究に関する事柄を記入するもので、1つは、教育や研究以外のすべての事柄を記入するためのものである。

- (5) 高橋政史『必要な知識を15分でインプットできる速読術』（クロスメディア・パブリッシング、2011年）5頁。  
(6) 同上書32頁。  
(7) プザン教育協会監修『マインドマップが本当に使いこなせる本ーペンとノートで発想を広げる“お絵描き”ノート術』（2008年、アスキー・メディアワークス）4頁。  
(8) 筆者は、KJ法を考案された川喜田二郎氏から直接KJ法の作成方法を学び、これまで研究や教育のために活用してきた。その実践については、高倉良一「大学教育とKJ法ー一般教育の演習科目におけるKJ法活用の試み（1）ー」香川大学一般教育研究第34号21頁（1988年）以下、同「大学教育とKJ法ー一般教育の演習科目におけるKJ法活用の試み（2）ー」香川大学一般教育研究第39号85頁（1988年）以下参照。  
(9) 論述型図解については、高倉良一「法学教育におけるロール・プレイング導入の試み」KJ法研究第11号（1996年）12頁参照。  
(10) プザン教育協会監修・前掲書88頁以下参照。

## 参考文献

- (1) 高橋政史『すべての仕事を紙1枚にまとめてしまう整理術』2011年、クロスメディア・パブリッシング  
(2) 高橋政史『マインドマップ問題解決ー「らくがき」で劇的に身につくロジカルシンキング』2009年、ダイヤモンド社  
(3) 川喜田二郎『KJ法ー渾沌をして語らしめる』1986年、中央公論社  
(4) トニー・プザン、バリー・プザン著 神田昌典訳『ザ・マインドマップー脳の力を強化する思考術ー』2005年、ダイヤモンド社